

第1日曜日
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～
その他の日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会会報

2022 (令和4年) 11. 13

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com https://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈禱会
第2日曜日 礼拝後
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「神の約束のスケール」

牧師 松谷 祐二

エゼキエル書 第三章二一～二八節

「そこで、彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしはイスラエルの子らを、彼らが行っていた国々の中から取り、周囲から集め、彼らの土地に連れて行く。わたしはわたしの地、イスラエルの山々で彼らを一つの国とする。一人の王が彼らすべての王となる。彼らは二度と二つの国となることなく、二度と二つの王国に分かれることはない。彼らは二度と彼らの偶像や憎むべきもの、もろもろの背きによって汚されることはない。わたしは、彼らが過ちを犯したすべての背信から彼らを救い清める。そして、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。わたしの僕ダビデは彼らの王となり、一人の牧者が彼らすべての牧者となる。彼らはわたしの裁きに従って歩み、わたしの掟を守り行う。彼らはわたしがわが僕ヤコブに与えた土地に住む。そこはお前たちの先祖が住んだ土地である。彼らも、その子らも、孫たちも、皆、永遠に至るまでそこに住む。そして、わが僕ダビデが永遠に彼らの支配者となる。わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。それは彼らとの永遠の契約となる。わたしは彼らの住居を定め、彼らを増し加える。わたしはまた、永遠に彼らの真ん中にわたしの聖所を置く。わたしの住まいは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。わたしの聖所が永遠に彼らの真ん中に置かれるとき、諸国民は、わたしがイスラエルを聖別する主であることを知るようになる。」

(新共同訳聖書)

神は、かつてダビデに、「わたしはあなたの王座をとこしえに堅く据える」と約束なさいました。神のなさる約束は、いつもスケールが大きいです。ダビデよりさらにはるか昔の先祖アブラハムにも、彼がまだ無名の一遊牧民に過ぎず、歳を重ねながらいまだ子を授かることができずにいた時、「あなたを大いなる国民にし、あなたの名を高め、地

上のすべての氏族の祝福の源とする」と約束なさいました。

神は、人間の行動を見てからどうするかお考えになる方ではありません。ダビデやアブラハムが何か思ったり行ったりするより先に、神はご自身の主導権をもって、新しいことを行われます。何十年、何百年、何千年にわたるような壮大な計画を立て、人間に救いの約束を告げ、人間を参加させながら、ご計画を成就して行かれます。

神は約束を守られる方です。約束を与えた人間には、「わたしを信じ、わたしの言葉に従って生きなさい」と仰せになります。約束にあらわれている神の御心はいつも、わたしたち人間を愛し、救ってくださることであります。ですから、わたしたち人間に求められているのは、「神に救ってもらおうとして生きること」よりも、「救ってくださる神を信じて生きること」です。

しかし人間の歴史は、悲しいかな、「救ってくださる神を信じて生きること」に失敗した事例であふれています。ダビデも時には失敗し、その子ソロモンも、あれほどの知恵を授かりながら、後半生は目も当てられないほど失敗しました。その結果、一つであった王国は南北二つに分裂し、先に北王国が滅び、やがて南王国も滅んでいきました。南北どちらの王国でも、人々は神の言葉に従って生きることをせず、神ならぬ偶像を拝み、外国の軍勢力をたのみとし、富める者が貧しい者から奪って安逸をむさぼりました。せつかく神が伸ばしてくださっていた救いの御手を、人間の不信仰が遮り、振り払ったのでした。

これは単なる古い時代の歴史のひとつまではありません。聖書に審判を仰ぐならば、現代に至るまでの歴史も、今まさにわたしたちの生きているこの時代も、ほとんど同じ罪を繰り返している、と判定されることでしょう。

しかし、それでも神は、約束を守られる方です。北に続いて南の王国も滅び、敵国に強制移住させられた絶望的な時代に、捕囚の民の中に住む一人の預言者の口を通して、もう一度、神は語られました。あのスケールの大きな救いの約束を、もう一度。

「わたしはわたしの地、イスラエルの山々で彼らを一つの国とする。一人の王が彼らすべての王となる。彼らは二度と二つの国となることなく、二度と二つの王国に分かれることはない。」

「わたしの僕ダビデは彼らの王となり、一人の牧者が彼らすべての牧者となる。彼らはわたしの裁きに従って歩み、わたしの掟を守り行う。」

「わたしはまた、永遠に彼らの真ん中にわたしの聖所を置く。わたしの住まいは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」

神は、単に「南北両王国の再統一」という政治動向の予想をされているではありません。神の約束はいつもスケールが大きいことを、忘れてはなりません。「わたしの僕ダビデ」は、来るべき救い主のこと。「一人の牧者が彼らすべての牧者となる」と言われるとき、神は「彼らすべて」と語られながら、本来ご自身のものである、世界のすべての民を見据えていらつしやいます。

使徒パウロはこう書きました。

エフェソの信徒への手紙 第一章一〇節

こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。

マタイによる福音書は、十字架の死から復活された主イエスのお言葉で結ばれています。大いなる約束をわたしたちにお与えになる、生ける神の姿が、ここにあります。

マタイによる福音書 第二十八章一八～二〇節

イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

十月の神学校日・伝道献身者奨励日によせて

東京神学大学学部四年 ヤング肇子

今年も神学校日がやって来ました。月日の流れは本当に早いものだと感じます。

今年、十月九日の神学校日は、以前所属していた倉敷市の日本基督教団玉島教会でご奉仕させて頂きました。

玉島教会は私が所属していた頃から年配者が多く、私でも若手の部類に入っていました。いつも出席される教会員の人数は二十名ほどの小さな教会ですが、皆さんお元気で、私を大歓迎して下さい、温かく迎えて下さいました。二十〜三十代の新しい教会員の方も二名加わり、二年前に新しく赴任された牧師先生たち(ご夫婦)の陽気なお人柄で教会の雰囲気活気がありました。

日本全国の教会に共通した課題である教会員の高齢化は深刻です。でも、その方たちは、いくつになってもイエスさまが必要であることをご存知な方たちばかりであり、またイエスさまもそういう人たちが必要とされています。その方たちの生きざまを通してイエスさまを知られるために必要とされているのだと思います。

また、牧師の不足も全国的に共通の課題です。玉島教会の同じ地区の二〜三の教会は無牧の状態で教会員の方々のご苦勞が伺えます。玉島教会の牧師先生たちがその無牧の一教会を兼務されているのですが、牧師にとっても教会員にとってもなかなか大変なご様子で、私に早く帰って来いと、矢の催促でしたが、私は未だ補教師にもなっておりません。牧師になることは本当に簡単な事ではありません。

神さまのご用をさせて頂けるようになるまで時間がかかります。また神学校を卒業

して教会のために派遣されても正教師となるまでには二年半から三年の訓練と実績を必要とされます。その間に、神さまはしっかりふるいにかけられます。召命を受けたと思つて入学した神学校の途中で間引かれていく者、卒業後に派遣された教会で人間関係やその他のことで辞めていく者、神さまの目は厳しく確かです。

最後まですべてを委ねて用いて頂く事、また自分の思いを基準とせず、与えられたことを受け入れることが出来るようにと願っています。そして、献身者がもう少し呼び集められればと切に祈っています。

私は、以前に比べて説教を用意することが楽しくなってきたように思います。松谷先生の説教は、聖書解釈が分かり易くかつすぐに自分の胸の中に収まってくるのを感じ、説教指導も以前は文章の訂正のレベルでしたが、少しずつ内容的に深まってきているように受け止めています。聖書のこの箇所もあの箇所もメッセージを作ってみましたという思いが出てきて、同じ箇所の他の人の説教を聞いてみることを欲しています。

十月十六日を神学校日として下さり、麻布南部坂教会でも説教のご奉仕をさせて頂けたこと、本当に感謝でした。説教は内容だけではなく、話し方も声のトーンも人の心にメッセージを届けるためには重要なことだと松谷先生から指導を受けました。

自分自身の信仰を育てるためにも、麻布南部坂教会に集う全ての方々から牧師として育てて頂く為にも、私にとって重要な教会です。先生を始め皆さまの健康が守られますように。

報告

*教会員の北原陽子姉が八月二十九日(月)、逝去され、九月七日(水)、桐ヶ谷斎場にて家族葬が行われました。また、菅沼

幸子姉が八月二十九日(月)、逝去され、九月五日(月)十三時より、当教会礼拝堂にて葬儀を行いました。
*教会員の萩原百合さんが、九月十七日(土)に男の子を出産されました。おめでとうございます。

*十月九日(日)は日本基督教団の定める神学校日・伝道献身者奨励日でした。ヤング肇子神学生は、岡山の玉島教会で神学校日の説教奉仕にあたられ、当教会では十六日(日)の主日に教会学校の礼拝と、主日第二礼拝で説教をしていただきました。

*九月二十七日〜二十九日に行われた第四十二回教団総会において、雲然俊美議長、藤森勇紀副議長、黒田若雄書記が新たに選出されました。

*麻布南部坂教会のホームページの内容が新しくなりました。是非ご覧ください。
<https://www.nanbuzaka.com/>

各部報告

成人会

日時 九月十八日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 二名
開会祈祷 下奥敏子姉
内容 エゼキエル書七章〜九章
神はイスラエルに終わりが来ると宣言された。主を信じないで作った沢山の偶像を見るたびに神の激怒は増していき、とうとう「皆殺しにせよ」と命令を出した。ただし、額に印をつけた者達は殺さないようにと。
(下奥敏子 報)

日時 十月十六日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 四名

開会祈祷 菊池才知子姉
内容 エゼキエル書 十章〜十三章
イスラエルの民に対し主なる神の審判が、エルサレム神殿に下される。予言者エゼキエルが主の栄光がエルサレムの神殿を去る、動画スペクタクルのような幻を観る。
次回十一月二十日 ヤング神学生が担当。
(菊池才知子 報)

婦人会

日時 九月二十五日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 八名
開会祈祷 菊池才知子姉
内容 列王記上十二章〜十四章
ソロモン王がその後半生に主なる神のみに背いたことによる神のご計画によって、ダビデによるイスラエル王国はこうして南ユダ王国と北イスラエル王国に分裂した。ユダの王レハブアムとユダの人々は、主がイスラエルの前から一掃した異教の民の忌むべきすべての慣習に従っていた。
(菊池才知子 報)

日時 十月二十三日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 七名
開会祈祷 菊池才知子姉
内容 列王記上十五章〜十六章
レハブアムの子アビヤムがユダの王になった。彼は父と同様主なる神に罪を犯した。アビヤムもまた父と同様ヤロブアムとの間に戦いを続けていた。アビヤムの死後、その子アサが王位に就いた。彼は父祖ダビデと同様主のみ旨に適用正しいことを行った。異教の悪しき習わしや偶像を廃棄した。
(菊池才知子 報)
次回十一月二十七日 列王記上十七章、十九章